

第 117 回素粒子原子核研究所運営会議議事要旨

- 日 時 令和 3 年 5 月 13 日（木） 13 時 00 分～16 時 35 分
- 場 所 高エネルギー加速器研究機構 管理棟大会議室＋リモート（Zoom）併用
- 出席者 花垣議長、飯嶋委員、五十嵐委員、市川委員、後田委員、宇野委員、大西委員、荻津委員、川越委員、久世委員、小松原委員、塩澤委員、瀬戸委員、高橋委員、田島委員、田村委員、飛山委員、永江委員、中野委員、中村哲委員、中村隆司委員、橋本委員、藤井委員、松本委員、三原委員
（欠席者 浅井委員）
オブザーバー
齊藤素粒子原子核研究所長、足立理事、内丸理事、岡田理事、幅理事、高橋理事、小関加速器研究施設長、小林 J-PARC センター長、住吉監事、藤澤総務部長、阿部財務部長、五味田研究協力部長、幸田参事役・総務課長、櫻井人事労務課長、坪研究協力課長、柴沼監査室長、岡田共同利用支援室長

配付資料

1. 第 7 期素粒子原子核研究所運営会議委員名簿
2. 素粒子原子核研究所運営会議規程
3. 第 116 回素粒子原子核研究所運営会議議事要録（案）
4. 人事異動
5. 博士研究員の選考結果について
6. 研究員の選考結果について
7. 2021 年度素粒子原子核宇宙シミュレーションプログラム審査結果一覧
8. 素粒子原子核研究所教員公募について
9. 協定・覚書等一覧(国内機関関係)

別途配信資料

- ・教員人事（素核研 20-10（実験）・教授 1 名）
- ・教員人事（素核研 20-11（実験）・准教授 1 名）
- ・教員人事（素核研 20-12（実験）・准教授 1 名・女性）

* 議事に先立ち、齊藤所長から新規委員の紹介があり、さらに、各委員から自己紹介があった。
また、資料 2 の素粒子原子核研究所運営会議規程第 5 条第 2 項に基づき、議長・副議長の選出が行われ、委員の互選により、議長に花垣委員、副議長に田村委員が選出された。

議 事

1. 前回議事要録の確認

花垣議長から、資料3の前回議事要録案（第116回・書面審議）について説明があり、原案どおり了承された。

2. 所長等報告

(1) 人事異動

齊藤所長から、資料4に基づき報告があった。

(2) 博士研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料5に基づき報告があった。

(3) 研究員の選考結果について

齊藤所長から、資料6に基づき報告があった。

(4) 素粒子原子核宇宙シミュレーションプログラムの審査結果について

齊藤所長及び橋本委員から、資料7に基づき報告があった。

<主な質疑応答等>

・本プログラムへの課題の応募数と採用数はそれぞれの程度か。

→今までの実績では、申請された課題の全てを採用している。

・計算機資源の余剰分はどの程度あるのか。CPUは不足していないのか。

→計算機資源の余剰分はない。課題の内容を基に採否を判断し、採択された課題間で調整して使用している。利用率は90%を超えている。

(5) 助教（卓越研究員）の公募について

橋本委員から、資料8に基づき教員公募（公募番号 素核研 20-15）の実施及び今年度の卓越研究員事業の概要について説明があった。本件については、可能な限り早く本公募を開始し、人事委員会及び本運営会議を開催することを確認した。

<主な質疑応答等>

・今年度の卓越研究員事業については、早期に提出することで有利な措置を受けると聞いているが、本公募のスケジュールでよいのか。

→公募要項上では、卓越研究員の締切は8月末に設定されており、また、募集定員より多く応募があった場合には、より早い時期に当事者間交渉が完了した人材を採用する旨が記載されている。そのため、8月末に限らずなるべく早い段階で申請したいと考えている。

・卓越研究員として選ばれなかった場合、本件人事はどのような扱いとなるのか。

→通常の助教として採用される。

(6) 各プロジェクト報告

①SuperKEKB 報告

飛山委員から、SuperKEKBの状況について報告があった。

②Belle と Belle II 報告

後田委員から、Belle と Belle II の状況について報告があった。

③J-PARC 報告

小松原委員から、J-PARC の状況について報告があった。

(7) 所長所信表明

齊藤所長から、素粒子原子核研究所の今年度からの体制等、現況について説明があった。その他、主な点は以下のとおり。

- ・研究者コミュニティによる将来的な研究計画として、高エネルギー物理委員会のロードマップや核物理委員会の研究計画などがある。これらは、最終的に予算の枠組みとして文部科学省の大規模学術フロンティア促進事業によってカバーされることになる。我々が提案した計画からは、Bファクトリー、J-PARC、HL-LHC、スーパーカミオカンデ及びHK計画が採用されている。素核研では、各大学では維持の難しい大規模設備や装置を有効に利用してもらえるように自らの専門性を発揮し、素粒子原子核分野研究のネットワークの中心として機能できるよう、大学共同利用機関としての役割をしっかりと果たしていく。そのためにも、大学の研究者とともに、強いサイエンスビジョンを共有し、また、設備・装置の製作及び運転をしていくことで、サイエンスの成果を創出していきたい。
- ・KEKでは、自由な発想に基づく研究の実現に向けた枠組みとして、KEKロードマップ及びKEK-PIPがある。KEKロードマップ2021については、昨年度末のKEKSACで議論された。

(8) PIPの進め方について

齊藤所長から、KIK-PIPの現況について説明があり、今後の進め方は次のとおりとしたい旨、説明があった。

2021年の6月にKEKとしてアウトラインをたたき台として公表する予定。8月にコミュニティの意見を集約した後、9月に意見交換会を開催し、11月にKEK-PIP2022のドラフトを公表。その後、さらにコミュニティからの意見を募って、最終案を策定。なお、KEK-PIPに掲載された研究計画については、最終的にKEKSACによって、優先順位付けがなされることに留意してほしい。

<主な質疑応答等>

- ・どのようなプロセスでコミュニティから意見を聴取するのか。
→コミュニティからの意見の集約方法は、現段階では明確に決まっていない。但し、前回とは異なり、意見を聴取する機会は複数回設ける。
- ・文科省のロードマップに掲載され予算を獲得するためには、学術会議のマスタープランの重点大型計画として選出されることが重要である。前回のKEK-PIP策定時の2016年には、KEKの各プロジェクトが文科省のロードマップに掲載されたことに加えて、KEKがKEK-PIPを策定したことが評価され、KEKの予算獲得にプラスに働いたと思う。今回も同様に評価されて予算の獲得に繋がるとは限らないと思われるが、研究プロジェクトの優先順位付けはどのように行っていくのか。今までと同様に行うのか。又は、海外からの貢献を踏まえた柔軟な優先順位付けを行うのか。
→現時点で、KEK-PIPの示し方や策定方針は明確に決まっていない。言及いただいた点も踏まえて、今後議論を進めていくことになると思われる。

3. 審議

(1) 常設人事委員の提案

齊藤所長から常設人事委員会のメンバーについて説明があり、提示した案のとおり了承された。

(2) 教員人事（素核研20-10（実験）・教授1名）

委員から、別途配信資料に基づき説明があり、教授1名の審議が行われた。

(3) 教員人事 (素核研 20-11 (実験)・准教授 1 名)

委員から、別途配信資料に基づき説明があり、准教授 1 名の審議が行われた。

(4) 教員人事 (素核研 20-12 (実験)・准教授 1 名・女性)

花垣委員から、別途配信資料に基づき説明があり、准教授 1 名の審議が行われた。

(以上)